

GINZA SIX



「ひさし」と「のれん」による外観

review

選評

銀座に出現した華やかな巨艦。これが完成した本作品を初めて訪れた際の第一印象である。もともと、銀座の街並みは細かい商店の街割りにより構成されている。比較的大きな服部時計店(現和光)や銀座三越でも、通りに面したファサードの長さは五〇メートル程度である。そこに二街区を統合した幅約一四メートル、奥行約八三メートル、軒高約五六メートルのボリュームが現れたのであるから、そのインパクトは強烈である。設計者がこれをどのように街並みに溶け込ませようかと頭を抱えたであろうことは想像に難くない。同じ中央通りでも、首都高を越えた日本橋側では、一〇〇メートルを越えた高さの超高層オフィスとセットになった複合再開発が行われているが、銀座にてそのよ

うな手法がとられなかったのは幸いであった。

正面の街並みに対し設計者が提案したのは、「のれんシステム」という、六階床レベルの底より一〇〜一五メートル程度のモジュール幅で吊り下げられる商店ごとのファサードである。こののれんファサードのデザインは、基本的にテナントごとにデザインされている。上層部で建物の一体性を示す水平線が強調された庇と、これらの個性を示す華やかな「のれん」が相まって、長大な中央通りに面したファサードが細分化され、ヒューマンスケールに落とし込まれている。

敷地中央を南北に縦断する路地は、訪れた客が足を踏み入れる低層部フロアの平面に干渉する。そこで、この路地を半地下に落とし込み、二階のレベルを下げた開放的な吹き抜け空間に訪問者をいざなう構成としている。さらに、その奥には三原通りに面した「三原テラス」を設け、街に開放している。屋上には銀座の街並みを見下ろす二、〇〇〇平方メートルの「GINZA SIX ガーデン」が設けられ、都心の緑を楽しむことができる。地下では地下鉄銀座駅に直行する地下通路が一街区にわたり新設された。今後、南側への地下ネットワークの発展が期待される。

もともと、このような経済装置としての複合開発の制約からか、残念な点も感じられる。「三原テラス」は当初地上レベルに計画されたが、観



区道付替えによる街区統合を行い、銀座の地で広い敷地を確保した。

〔2019年 第60回 BCS賞受賞作品〕愛知県立愛知総合工科高等学校／赤坂インターシティAIR (赤坂一丁目地区第一種市街地再開発事業)／OIST 沖縄科学技術大学院大学 フェイズ1／太田市民会館／オーディオテクニカ本社／GINZA SIX／新発田市新庁舎／新山口駅北口駅前広場「0番線」・南北自由通路／東京ガーデンテラス紀尾井町／東京ミッドタウン日比谷／富山県美術館／ナセBA (市立米沢図書館・よねざわ市民ギャラリー)／HIRAKATA T-SITE／フェスティバルシティ (中之島フェスティバルタワー (東地区)、中之島フェスティバルタワー・ウエスト (西地区))／立命館大学大阪いはらきキャンパス



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2019年で60回を数えました。



建築主より

Message from Client

GINZA SIXリテールマネジメント株式会社
代表取締役社長

竹原幹人 Mikito Takehara

銀座の街とともに、歴史を刻んでいく

1924(大正13)年以来、この地で商業を営んできた松坂屋銀座店跡地に、城内最大の施設へと建て替えるにあたり、私どもが重視したのは銀座の街の品格を穢すことなく、街に溶け込み歩いていくことでした。それでも地下6階、地上13階の延床面積約14万8,000㎡、2街区を一体整備した建築物は想像以上の存在感となります。この難しい注文にお応えいただいたのが谷口先生で、中央通りへの華やかなファサード、三原通りへの開放感あるテラス、都心の憩いの場としてのルーフトップガーデンと、多くの課題を洗練された作品に昇華いただきました。特に正面の街並みに面した「のれん」と「ひさし」のデザインは、銀座の街並みが持つ歴史と美しさを惹き立てる役割となりました。

本年4月で開業3年、銀座の街と長く歩いていけるよう、また本賞に恥じぬよう、運営管理に努めて参ります。



設計者より

Message from Architect

株式会社谷口建築設計研究所
所長

谷口吉生 Yoshio Taniguchi

持続可能なファサードシステムの提案

GINZA SIXは銀座随一の広さの敷地であり、様々な都市計画手法を駆使した再開発事業である。銀座には官と民が協力しながら、街づくりを行ってきた歴史があり、計画から竣工まで、地元をはじめ関係官庁と、様々な議論を行って、漸く竣工することができた。

銀座エリア最大の商業施設であり、上層階のオフィス部分の周りに取り付けられた「ひさし」が計画全体の統一性を強調し、下層の商業階に吊り下げられた「のれん」が歩行者空間への賑わいを演出する仕組みである。「のれん」は一定のルールに従って各テナントが自由にデザインすることが可能であり、営業を継続しながら外部から取り替えることもできるようになっている。この様な持続可能なファサードシステムの提案により、GINZA SIXがこれからも、銀座のランドマークとして、輝き続けることを期待したい。



施工者より

Message from Builder

鹿島建設株式会社
東京建築支店 支店次長(当時 総合所長)

金丸康男 Yasuo Kanemaru

銀座のランドマークになる建物を造る

今でも銀座に来れば建物を眺めて当時のことが思い出されます。特に夜景はすばらしく谷口先生の設計思想が見事に反映され、のれんの銀座らしさとひさしに映り込む光は感動するばかりです。銀座でこれだけの大規模な再開発はもう無いであろうと言われていました。大深度の地下工事と地域冷暖房施設を稼働することが大命題の工事でした。そのため山留壁は厳選して施工しました。地下鉄銀座線、近隣、第三者に迷惑の掛からないことを第一に考え、安心して施工できたことで難関を乗り越えることが出来たと思っております。最盛期には毎日3,000人を超える人が従事しました。「銀座のランドマークになる建物を造る」を目標に建築主・設計者・施工者が三位一体となり、すばらしいチームワークで完成できました。関係されたすべての方々に心より感謝してこの賞を共有したいと思います。



1. 回遊の起点となるアトリウム 2. 銀座の街並みに面した憩いの屋上庭園「GINZA SIX ガーデン」
3. 三原通りを見下ろす「三原テラス」 4. 多目的利用も可能な「観世能楽堂」

GINZA SIX 計画概要	
●建築主	銀座六丁目10地区市街地再開発組合
●設計者	鹿島建設(株) 谷口建築設計研究所
●施工者	鹿島建設(株)
●所在地	東京都中央区銀座6-10-1
●竣工日	2017年1月31日
●敷地面積	9,077㎡
●建築面積	8,921㎡
●延床面積	148,697㎡
●階数	地上13階、地下6階、塔屋2階
●構造	鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、 鉄筋コンクリート造

光バスターミナルを導入するために地上からは視認しにくい二階に持ち上げられてしまった。屋上庭園もアクセスが限られややわかりにくい。敷地を南北に貫通する通路の内部空間も、もう少し華やかな顔を持つていても良かったのではないかなと思われ。

しかしながら、上層に居心地の良いブックカフェ、地下に新しい観世能楽堂を抱くこの大規模施設は銀座南街区を活性化させるための文化的・商業的拠点となることは疑いなく、その設計・施工技術のレベルの高さからもBCS賞に相応しい作品であるといえよう。

「選考委員」 竹内徹・川島克也・栗山茂樹